

神の終極の行動の中で終極の責任を担う

聖書：ピリピ 1:21 前半、エペソ 4:16, 24、啓 1:2, 9, 11-12、19:7、5:6、使徒 20:24

I. わたしたちは、世界の終極の情勢、神の終極の行動、神の終極の回復に関する終極の責任を担う必要があります：

A. わたしたちの終極の責任は、キリストのからだ、すなわち一人の新しい人のためにキリストで浸透飽和されることです——エペソ 3:16、4:12, 16, 24：

1. わたしたちは福音を宣べ伝えること、神聖な真理を教えること、神によって定められた道にしたがって集会することに関して、わたしたちが持っている大きな責任を認識しなければなりません。しかしながら、わたしたちはこれら三つの事柄で満足すべきではありません。なぜなら、それらは神の願いを成就することができないからです——マタイ 24:14、28:19。

2. 神の願い、神の大いなる喜びは、わたしたちがキリストを生き、キリストを召会生活の実際（真の内容）として持ち、あらゆる地方召会を金の燭台とすることです——エペソ 1:5, 9、ピリピ 1:21 前半、2:13、啓 1:11-12：

a. このようにして、からだの生活はローマ第 12 章の実際に到達し、このことは自然に主の再来のために花嫁を用意します。

b. これが主の回復の目標です。世界情勢はこの目的のために用意されています——マタイ 16:18、エペソ 4:16、啓 1:5、使徒 17:26。

3. わたしたちの終極の責任は、日常生活においてキリストの生ける証し人となり、わたしたちの地方において集会することによって、わたしたちがからだ、新しい人、燭台、花嫁となることです——エペソ 4:16, 24、啓 1:12、19:7。

B. わたしたちの終極の責任は、イエスの証しを担うことです——1:2, 9：

1. 啓示録はイエスの証しを提示しています。それはキリストの団体的な表現としての召会です——2, 9, 20 節、19:10 後半。

2. 啓示録はキリストを明らかにしており、キリストは召会を通して表現されます。ですから、召会はこの書の中で啓示されているイエスの証しです——1:1, 13, 20、19:10 後半：

a. イエスの生けるパースンは、神のかたち、表現、証しです。今日、召会はイエスの証し、彼の団体的な表現です——Ⅱコリント 4:4、コロサイ 1:15, 18、3:10-11, 15。

b. キリストにある信者たちとして、わたしたちはみなイエスの複製、「写真」です。今や神は団体的な表現である召会を持っており、召会は神の表現であるイエスの証しです——ヨハネ 1:14, 18、12:24、Ⅱコリント 3:18、エペソ 1:22-23、4:16。

C. わたしたちの終極の責任は、金の燭台としての地方召会を設立することによって、イエスの証しを広めることです——啓 1:11-12, 20：

1. 主の回復を広めることは、わたしたちの終極の責任の一部分でなければなりません——マルコ 16:15, 20、ヨハネ 15:16、使徒 1:8。

2. イエスの証しとしての召会の宇宙的な拡大のために、わたしたちは金の燭台としての「召会の木」を植えて、三一の神に団体的な表現を得ていただく必要があります——I コリント 1:2. 啓 1:11-12, 20 :

- a. わたしたちは召会を形成することはできませんが、地の果てまで行って召会の木を植えることによって地方召会を設立する地位、権利、機会、さらには使命を持っています——使徒 1:8. 13:1-3. ガラテヤ 1:2. 啓 1:11. I コリント 1:1-2. I テサロニケ 1:1.
- b. 召会の木としての地方召会は金の燭台であり、金の燭台は実は生ける金の木です——啓 1:11-12, 20.
- c. しるしにおいて、金の燭台は三一の神の具体化また表現としての召会を表徴します——11-12 節。
- d. わたしたちはみな、金の燭台である召会の木を植えることによって、地方召会を設立する必要があります——ローマ 16:16 後半. ガラテヤ 1:2. I テサロニケ 1:1. 2:14.

II. わたしたちは神の終極の行動の中で終極の責任を担うために、神の永遠のエコノミーにしたがって、神聖な行政の中心としてのキリストを認識し、経験する必要があります——啓 4:2. 5:6. 22:1 :

- A. キリストは昇天において御座に座しており、神の行政を、すなわち神の統治上の働きを執行しています——ヘブル 12:2. 啓 3:21. 22:1. 5:6.
- B. 神の具体化としてのキリストは今日、宇宙の行政執行者です。天においても地においても、いっさいの権威が彼に与えられています——マタイ 28:18.
- C. 主イエスが十字架につけられ、葬られた後、神は彼を復活させ、彼を神の右に座らせ、彼を全宇宙の主としました——使徒 2:34-36. ピリピ 2:5-11.
- D. 啓示録によれば、昇天したキリストが座している御座は、神聖な行政の御座です——啓 4:2, 5. 5:6. 22:1 :

1. 小羊、贖い主、わたしたちの罪のために十字架上でほふられた方は、今や御座で全宇宙に対して神の行政を執行しています——ヨハネ 1:29. 啓 5:6.

2. 主イエスは御座に座して、宇宙において神の統治上の行政を執行しています :

- a. キリストは神の宇宙的な統治における天の行政執行者として御座に座している方であり、地上の諸王の支配者です。諸国民の諸事は彼の支配の下にあります——1:5 前半。
- b. 神の統治上の行政において、キリストは元首また救い主、ダビデのかぎを持つ方です——使徒 5:31. 啓 3:7.

III. わたしたちは神の終極の行動の中で終極の責任を果たそうとするなら、小羊の行く所へはどこへでも従って行く必要があります——啓 14:4 後半 :

- A. 小羊に従って行くことは、十字架につけられ、復活し、昇天し、御座に着いた贖い主の行動において彼と一となって、神聖な行政を執行し、神聖なエコノミーを究極的に完成することです——1:5. 5:6. 14:4 後半。
- B. わたしたちはみな小羊に従って、彼によって定められた行程に行くべきです——使徒 20:24 :

1. わたしたちは主が定めた行程を探し求めて、忠信にその行程を行き、どんな代価でも払って、一心にわたしたちの行程を進み続ける必要があります、ついにわたしたちは目標に到達します——Ⅱテモテ 4:7。

2. 主がわたしたちのために定めた行程は、わたしたちの前に置かれているレースです——ヘブル 12:1-2。

Ⅳ. 神の終極の行動の中で終極の責任を担うことは、忠信さを必要とします。こういうわけで、わたしたちは忠信になるために、主にあわれみを求めるべきです——Ⅰコリント 4:2. 7:25. マタイ 24:45. 25:21, 23. 啓 17:14。